

II-10

私の子育て、これでいいの？ ～開かれた子育て関係～

- ワーク1** ● 子育てに関して、自分の考えと他の人との考えが違っていて、戸惑った経験はありませんか。戸惑った経験を思い出して書いてみましょう。

例：(自分：食事の好き嫌いには厳しい) ⇔ (夫：好き嫌いには甘い)

例：(自分：ゲームはさせたくない) ⇔ (ママ友：ゲームしないと友達ができない)

(自分：) ⇔ (:)

- そのとき、あなたはどう思いましたか。

- ワーク2** ● 子どものわがママを、許しますか。許しませんか。

A：基本的にわがママは許す。

B：基本的にわがママは許さない。

- ① A、Bのどちらを選びましたか。(理由も)

- 自分が子どもの頃はどう (A or B) 育てられていましたか。そのことを今はどう思いますか。

自分が子どもの頃、

今は、

A：基本的にわがママは許す。

B：基本的にわがママは許さない。

資料A

(選択した答えと同じ記号の資料だけを読む。)

資料B

- ② 資料を読んでどう思いましたか。A、Bのどちらを選びますか。

- ③ もう一方の資料を読んでどう思いましたか。A、Bのどちらを選びますか。

ワーク3 ● 自分の考えがどのように変容したかをふりかえてみましょう。

① 初めの意見



② 真逆の意見を聞いて



③ 両方の意見を知って

資料

人はどうやって価値判断をするのでしょうか？ 知り合いから聞いた目からウロコの話、決して揺るがぬ自分の信念、アンケートから見えてきた大多数の意見、ネットで読んだ評論家のコメント、みんなやっているという雰囲気…などなど。こうした様々な要素から影響を受けながら、価値判断に到るのだと思われます。

ここで気をつけなければならない点は、価値判断をする多くの場合、そこに「真理」や「正解」がないということです。そのため「子どもをほめて伸ばす？ 叱って伸ばす？」という命題についても、それぞれに言い分やとらえ方がある中で、私たちは何らかの判断をしなければならぬのです。

今回のプログラムは、まさにこの点を体験的に理解するとともに、自身の価値判断をどのように行っているのか、そのプロセスを自覚するきっかけにできたのではないのでしょうか。そして「私の価値判断」は、決して「あなたの価値判断」とイコールではないことを理解していただけたのではないのでしょうか。

人は価値判断をする上で、それぞれに影響を受ける要素も異なっていれば、判断に到るプロセスも異なっています。したがって、「(価値判断は) みんなちがって みんないい」となるわけです。重要なのは、それぞれ異なった価値判断をするのが当たり前であり、そのちがいを受容し合うこと、そうすれば「開かれた子育て関係」を築きやすくなるのではないのでしょうか。

特に、「子育てには正解がない」とよく言われるように、それぞれの親たちが正解のない多様な価値判断の中で揺らいでいます。「自分の子育ては本当にこれでよいのだろうか？」と…。この揺らぎを自分の中で受け入れ、揺らぎの中に意味を見出していくためにも、開かれた子育て関係はありがたいものですね。

● 今日の学習を通して、「気づいたこと」や「思ったこと」を書きましょう。

ふりかえりシート